

令和6年8月21日

議事録作成者：事務員（アシスタント） 柏倉由紀子

令和6年度 第2回在宅医療・介護連携推進業務運営会議（議事録）

日 時 令和6年8月2日（木）13時30分  
場 所 日本海総合病院 ミーティングルーム  
出席者 第2回在宅医療・介護連携推進業務運営会議 出席者名簿のとおり  
議 事 以下のとおり

1 開会

2 報告

1) 研修会について開催報告（在宅医療・介護連携支援室ポンテ）

①医療サポート研修会

- 第2回「高齢者の骨折の特徴と予防～骨折により入院した高齢者の事例から介護・看護を考える～」5/30(木)について、資料1で報告。
- 「認知症の特徴と非薬物療法での関わり方」8/22(木)、「呼吸器疾患と看護・介護の留意点～明日からできる呼吸ケア」9/12(木)の研修について説明。

②医療と介護の合同研修会

- 第1回「口腔の基礎的機能と OHAT（簡易的評価方法）に基づいた口腔ケア」6/14(金)について、資料2で報告。
- 接遇に関する研修会の要望があったが、ロールプレー等も取り入れ、少人数での開催や各施設での対応等をふまえた研修会が効果的と考えるため、「人的資源活用研修会」を活用してほしい。

3 議事

1) 医療・介護情報連携アプリ Team について（日本海総合病院 病院改革推進室）

①資料をもとに概要を説明。

- ・既に各施設で使っているシステム・アプリなどがあると思うが、さらにこの Team に入力するのは二度手間になるため、使っているシステムから PDF 等ダウンロードして貼り付ければよいのではないかと考えている。
- ・同意書については、口頭同意が適切ではないかと考えているが、施設との話し合いをもとに検討する。
- ・今後のスケジュールとして12月運用開始を目標としている。それに先立ち8月から試用期間がある。順次賛同いただける施設から活用していただき、意見を集約していきたい。

## 2) Team 運用についての質疑応答

### ① ログインについて

- ログインは何台まで可能か。

→施設職員 100 人分まで可能。パソコン、タブレット、iPad、スマートフォンで使用可。ただし iPhone は不可。

### ② 同意書について

- 同意をもらうのは、どういう段階か。利用者に何をどう説明するのか。

→病院を例にした時

- ・ 転院の時など、病院間で調整が必要な時 A と B に情報交換する。
- ・ 施設を探す時、施設への情報提供に活用する。

- 口頭同意だと書面では残らない。例えば病院なら看護記録に「同意を得る」と記録するが、書面に残す必要性をどう考えているのか。

→Team に何月何日この患者から同意をもらったと記録しておくように考えている。

- 現状は施設を探し始める時は同意書もらわず、個人が特定されない程度（介護度・性別）の情報を施設間でやり取りし、徐々に利用者側と相談して詳しい情報を伝えていく。居宅ではあらかじめ契約として個人情報の同意をもらっているが、ちよかいネットは特別で印鑑を押してもらうのだが、嫌だという人もいる。本当に口頭同意だけで大丈夫なのか。

→Team は施設間の情報共有がやりやすいという大きなメリットがある。同意書については、全国的に課題になっている。地域によって医療情報は口頭同意、介護施設に入所するときは同意書もらうなどまちまちである。その都度、同意書もらうということでは業務に支障をきたす。実務的なことをふまえて、口頭同意が妥当と考えている。

- それぞれの施設で同意の取り方を決めるのは難しいのではないかと。酒田市に決めてもらいたい。

→酒田市では決定するのは難しいと思う。実務をしている現場の方々の意見をいただきながら、行政・ケアマネ連協等話し合い決めていきたいと考えている。

### ③ Team の閲覧について

- 一施設 100 人ログインできるならば、ケアマネだけでなく居宅の従業員誰でも、事業所の全員が情報収集できるのか。

→可能である。

- 大きい施設で、老人保健施設の本体、居宅、包括支援センター、訪問看護があるという場合、一か所で管理するのか。

→事業所に判断をお願いしたい。同じ ID で良いならば、ID は一つ。機能別に ID を 2 つ 3 つと複数持つことは可能。ただし 2 年目以降 ID 一つにつき年間 ¥6,000~8,000 程度費用がかかる。

- 居宅と訪問では運営方法や契約が全く異なるが、どのようにすれば良いのか。

→試用期間であれば ID をいくつも持つことが可能なので、職員設定で分けたり、事業所単位で

分けたり等、いろいろな形を試してみしてほしい。運用方法は使用しながら検討・相談させて  
いただきたい。

- 同じ事業者の中で、包括と居宅の場所が違って同じ情報を見れる場合、問題があるのではないか。デイサービスに情報を提供したのにショートステイでも知っていたということが起こらないか。

→包括と居宅が同じ場所にあったとしても、それぞれの部署で権限を分けることで、お互いの情報をお互いに見れないようになっている。同じ法人であっても全く別の事業所と認識して情報を扱ってもらいたい。居宅は居宅の ID と分けた方が整理しやすいと考える。

- 入院時情報提供が一番利用できるのではないかと考えているが、他にどのような使い方があ  
るか。また、入退院支援センターから電話で頂いている情報が Team で見れるのか。

→施設間で入院時情報提供シートなどから始め、徐々に患者ごとのページを作るというふうに  
拡大していければと考えている。いずれ電子カルテともつなげたい。スマホでの入力は大変  
だが、電子カルテから貼り付け、内容確認したうえで電話でやりとりするなどの活用もでき  
る。

- チャットの機能があるといい。

→現在業者に事業者間のチャットルームを作るよう打診中。きちんと機能拡充してリリースし  
たい。日本海総合病院からもリハビリの情報等どんどん出して活用してほしい。

- 自分に情報が届いたらすぐ気づくことが大切だが、通知機能はあるか。

→ポップアップ機能はないが、Team を開けば通知が表示されるようになっている。Team を開か  
なくてもメッセージが入っている旨、自分が登録しているメールアドレスに送ることはでき  
る。

#### ④ Team の広報（アナウンス）について

- このシステムを運用するにあたっては、市からアナウンスするのか。

→利用者、住民、いろいろな方にアナウンスする。

## 4 その他

1) 日本海総合病院入退院支援センター看護師の配置一覧について【資料 3】で共有。

2) 各参加団体より

- OHAT に関して

大沼歯科医院との連携で、病院が直接 OHAT に関与しスムーズに進んだことから、病院側か  
らのアプローチを強化するフロー作成中である。

- 安心お帰り登録について

4 月から酒田市高齢者支援課で対応することになった。

## 5 閉会

第2回在宅医療・介護連携推進業務運営会議 出席者名簿

(敬称省略)

所 属	氏 名
酒田市地域包括支援センター まつやま	阿部 涼子
酒田市地域包括支援センター ひらた	佐藤 立彦
酒田市ケアマネジャー連絡協議会 (居宅介護支援事業所檜の木)	梅津 眞樹
酒田市ケアマネジャー連絡協議会 (在宅介護支援センターうらら)	斎藤 夕子
日本海総合病院 病院改革推進室	池田 恒弥
日本海総合病院 病院改革推進室	岡部 幸大
在宅医療・介護連携支援室 ポンテ	佐藤 由枝
在宅医療・介護連携支援室 ポンテ	佐藤 美樹